

タイ北部の陰茎癌におけるHPV遺伝子型分布の特異性

鳥山 寛¹ 千馬 正敬¹ 熊取 厚志² 森内 俊之² 藤田 修一³長崎大学 熱帯医学研究所 病変発現機序分野¹ 長崎大学 熱帯医学研究所 炎症細胞機構分野²長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 硬組織分子病理学部門³

【目的】熱帯の開発途上国においてはその独特な自然環境や住民の生活・衛生環境、栄養状態などをもとに、赤道アフリカのバーキットリンパ腫や東南アジアの鼻咽頭癌などの腫瘍ウイルス関連悪性腫瘍が高い頻度で見られる。ヒトパピローマウイルス(HPV)との関連性が強く示唆されている陰茎癌もその一つで、欧米や日本などの先進諸国ではまれな疾患であるが、開発途上国では頻繁に見られる。しかしながら陰茎癌でのHPV遺伝子型についての報告は少ない。我々はタイ北部、チェンマイ地域における陰茎癌を対象に組織型、転移の有無などの臨床所見、HPV感染およびHPVの遺伝子型を検索したので、同地域の陰茎癌でのHPV遺伝子型の分布の特徴、各項目間の関連性などについて報告する。

【方法】タイ北部、チェンマイ地域において陰茎癌の疫学調査をおこなうとともに良性腫瘍および非腫瘍性疾患を含めた外科・生検標本75例を材料に組織学的所見、p16、p53の免疫染色、ISH法によるPan HPV-DNA反応を検索し、PCR法によってHPV genotypingをおこない、その結果を解析した。

【結果】1)陰茎癌64例中51例(79.7%)が角化をともなった高分化の扁平上皮癌であった、2)リンパ節郭清をおこなった症例での領域リンパ節転移は24例中4例に見られ、3例が高分化、1例が低分化の扁平上皮癌であった、3)Pan HPV-DNA反応は73例中41例(56.2%)に陽性であった、4) Genotypingをし終えた15例の癌では、HPV-6の単独感染が8例(53.3%)、HPV-18の単独感染が4例(26.7%)、HPV-6,18の重複感染が2例(13.3%)、HPV-6,18,22の重複感染が1例(6.7%)に見られた、5)前癌病変である異型上皮の1例ではHPV-6,18の重複感染が見られ、1例の非腫瘍性疾患ではHPV-6が単独陽性であった、6)high risk groupに属し、癌発生の報告が多いHPV-16の感染は見られなかった、7)HPV遺伝子型と組織学的分化度との間には相関性は見られなかった。

【考察】陰茎癌に関連するHPVの多くはhigh risk groupに属する16,18型であり、low risk groupに属する6型での癌発生の頻度は低く、報告例も少ない。今回のタイ北部での標本を用いた検索では重複感染例を含めると15例中11例(73.3%)に6型の感染が確認され、また、HPV-16の感染が見られず、これらは疾患の地域特異性を知るうえで、興味深い知見と思われる。現在症例数を増やして検索を続行中であり、またHPV癌遺伝子発現の活性化の指標とされるp16および転写因子であるp53についても解析中である。これらの結果を含めて考察したい。

Characteristic prevalence of HPV genotypes in penile cancer in northern Thailand

KAN TORIYAMA

Dept of Pathology, Inst of Trop Med, Nagasaki Univ, Nagasaki, Japan